

令和4年度第1回庄原市「学びの革新」推進協議会

令和4年7月12日（火） 庄原市立東城中学校

「本市児童生徒の『主体的な学び』を促進する教育活動を推進するとともに、学校全体での組織的なカリキュラム・マネジメントの実現に取り組むことにより、児童生徒の資質・能力の向上を図ること」を目的に、研修会を行いました。

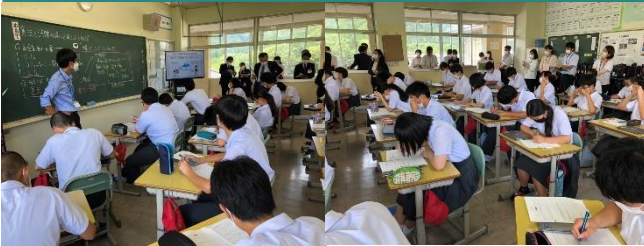
【研究授業】教科等:第3学年 社会科「個人の尊重と日本国憲法」

授業者:庄原市立東城中学校 教諭 山口 陽平

【事後協議】「『本質的な問い』による授業改善に向けて」

庄原市教育委員会 教育指導課 指導主事 片山 博子

【指導・助言】広島県北部教育事務所 教育指導課 指導主事 塩田 佐恵



【グループ協議】

- 本時のめあてである、「憲法と法律の違い」について考えさせるため、身近な場面を取り上げたのはよかった。その上で、生徒同士が意見の練り合いを行い、考えをより深めるために、問いの工夫ができるかというのではないか。
- ICTの活用(jamboard)により、大人数の意見を短時間で集約、把握、整理、共有ができていた。また、優先順位を色分けすることで、めあてに迫ることができていた等、タブレットの活用が大変参考になった。生徒がタブレットを使いこなせており、普段から活用していくことの大切さを感じた。

【指導・助言】

- 学習過程において、身近な場면을様々な立場から考えることで、自分事として学習課題を考えることができた。「本質的な問い」を軸として、単元を貫く問い、個別の問いを立てることで、単元全体を通して、現代社会の見方・考え方を働かせながら、どのような力を生徒に付けさせたいのか明確になっていた。

【講話】「全ての児童生徒の『主体的・対話的で深い学び』の実現に向けて～第Ⅲ期(2年目)の取組～」

広島県教育委員会 義務教育指導課 指導主事 寺本 佳子

- 授業改善においては、「主体的・対話的で深い学び」が実現できた児童生徒の姿をより具体的に捉え直し、教師の見取りや指導、支援のあり方を明確にすることが大切であり、広島版「学びの革新」授業参観シートを活用することも有効な方法の一つである。また、授業の学習過程の中でツールとしてデジタル機器を効果的に活用することで、児童生徒の思考、対話や表現等の質が高まり、主体的・対話的で深い学びにつながっていく。



【参加者の感想等】

- ◆教科固有の見方・考え方を働かせる授業展開について指導者が視点をもち、授業を行うことの大切さがより深く理解できた。見方・考え方を働かせながら考えを深めるための発問の工夫を行いたい。
- ◆提案授業から、Google Classroomの様々な機能を使って意見の交流が短時間でできることが分かった。デジタル機器の活用については、得意な職員だけでなく、すべての職員が活用できるようにしていくため、活用の目的や方法を参考にしていきたい。
- ◆中学校の授業を参観することで、小学校段階においてどのような力を付けておけばよいか見通しをもつことができた。